

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	株式会社グッドライフ		
○保護者評価実施期間	2025年2月10日 ～ 2025年3月31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0	(回答者数) 0
○従業者評価実施期間	2025年2月10日 ～ 2025年3月31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年4月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	教室の作りに合わせて、学習・療育・クールダウンの場所など設定して、個別対応が必要な児童にも対応している。	下校した様子を情報ツールで共有し、子どもたちの様子に合わせて療育を行えるように、教室環境も柔軟に変えている。	職員が自ら考えて、子どもたちへよりよい言葉がけが出来るようにしていく。
2	対応する力を身につけるためにも朝礼で話し合い、子どもたちの様子や昨日の引継ぎをすることで、チームで療育を行っている。	朝礼の時間に職員が意見を出しやすいように、話しやすい空気を作っている。意見を肯定し、療育現場でどのように実施出来るか、どのような目的かを職員間で共有している。	職員間の経験の差もあるため、研修などを通して職員の療育に関する知識を深めていく。
3	支援プログラムが固定化されないように、長期休暇の過ごし方や事前に準備を進めて、子どもたちの興味があることや経験してほしいことを踏まえてイベントを実施している。	行事予定表を作成し、当日の動きを事前に職員間で相談し複数の意見から現状の子どもたちにとって、何がいいかを考えている。	異年齢や学校が異なることを踏まえて、子どもたちの出来ることを増えるような声掛けなど行う。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	学童や地域の子どもの交流する機会が少ない。	下校時間や活動内容の兼ね合いで時間を確保しにくい。	長期休暇や短縮授業の日など、時間に余裕がある日は、地域交流する機会を検討する。
2			
3			